

市村賢士郎准教授らの研究グループが日本心理学会第 89 回大会で特別優秀発表賞を受賞

日本心理学会第 89 回大会で発表された、渡邊智也・市村賢士郎・米田英嗣・蓮行・末長英里子・楠見孝による研究「VR 空間における演技創造は他者理解と感情的共感を高めるか」が、特別優秀発表賞を受賞しました。

<https://psych.or.jp/prize/conf/>

演劇において、登場人物の気持ちを推測し、その感情を自分も追体験するように演技することは、他者への理解や共感力を高めると言われています。しかしこれまでは、物語の世界に深く入り込める人にしか演技の効果が現れにくいという課題がありました。

本研究では、俳優の演技を主人公視点から撮影した VR（バーチャル・リアリティ）映像をヘッドマウントディスプレイで視聴する手法を取り入れました。これにより、舞台空間や対話相手となる共演者を視覚的に補って参加者の想像力をサポートし、物語への入り込みやすさに関わらず、演技による他者理解や共感の向上効果を引き出せるかどうかを検証しました。

実験では、参加者を「VR 映像を見ながら実際に演技をするグループ」、「VR 映像を見るだけのグループ」、「戯曲（台本）を読んで要約するグループ」の 3 つに分けました。その結果、戯曲を要約するグループと比べて、VR 空間で実際に演技をしたグループは、対人場面で他者の心情を理解するテストの得点が、演技直後だけでなく 1 週間後においても高いことが分かりました。

これは、VR 上で現実に近い場面での対話を能動的に再現する体験が、相手の気持ちを推し量る力を促したと考えられます。また、この効果が少なくとも 1 週間維持されていたことは、VR を用いた手法が効率的で持続性のあるトレーニングになる可能性を示しています。

選考において本研究は、VR 空間における演技創造が他者理解や共感に貢献するかを調べた、創造性の高い研究であると高く評価されました。また、新しい研究領域を切り拓こうとしている点や、VR 空間での活動が果たす役割に注目した点が特に卓越した研究であると認められ、今回の特別優秀発表賞の受賞に至りました。

実験に使用した VR 映像（発表ポスターから引用）

